

にじゅうしせっき

二十四節気の考え方では、今の時期（3月5日～19日まで）を「啓蟄（けいちつ）」と呼ぶ。「蟄」とは冬眠している虫やカエル、ヘビなどのことで、「啓蟄」は小動物たちが冬眠から目覚める時期を意味している。でもじつは、ヒキガエルやアカガエルは啓蟄より少し前、まだ寒さの残る2月中頃に冬眠から覚めて繁殖している。彼らは少し早起きして、**寒いけど敵のいない時期を選んでいるのだ**。ということで！今年も、1年間楽しみにしていた「**ガマ合戦**」を観察してきた！メスを奪い合うオス同士の喧嘩「ガマ合戦」が見れるのは、**1年でたった1～2日程度だけ**。以前から言っているように、ガマ合戦のピークを見極めるのは難しい（Vol.70参照）。今年は2月15日に気温20℃を超え、大量のヒキガエルが目覚めて池に向かい始めた。この日はハルタ班とヒカル班の二手に分かれて調査を行ったようで、体長や模様を記録できたのが58匹。捕獲できなかったものも含めると**100匹はいただろう**。前日（18.5℃）は3匹しかいなかったのに大違いだ。でも、翌16日（金）には気温が急降下し、ダウンを着ていても凍えた。そんな寒い日は陸にカエルはゼロ。土日の予報も気温が低めだったから、ガマ合戦は来週に持ち越しだな…とその時は予想していた。

しかし、日曜になると妙に暖かい。予報よりも気温が高くなった。これはいかん。**絶対に今夜ガマ合戦をやるぞ**…と夕方くらいからソワソワし始める。1年に1回の大イベントを見逃すわけにはいかない。ということで、急いで猿江公園に向かった（ちなみに、ハルタはこの日、自宅近くの池を見に行ったそうだ）。案の定、猿江公園ではすでに産卵も始まっていて、大量の卵塊のまわりでバチャバチャと大ガマ合戦が繰り広げられていた。

カエルだらけの池で興奮して鼻息を荒げながらバシバシ写真を撮っていた。すると、「あれ？佐藤先生？」と話しかけられギクッとす。まさか知り合いに会うとは思わなかった…。振りかえる（カエルだけに）と、以前、環境系のイベントでお会いした環境工科専門学校のコバヤシ先生だった。右手にはカウンターを持っている。なんと、コバヤシ先生も毎年この池にカエルを見に来ていて、繁殖個体の数を数えているらしい。無論、仕事ではなく趣味で。カエル仲間じゃん！「いやあ奇遇ですねえ」なんて言いながら一緒に楽しくヒキガエルを観察した。はたから見れば、夜22時すぎに2人のおっさんが池でカエルを見てにんまりしているのだ。かなりアヤしいシーンだろう。

結局、観察に熱中しすぎて帰りが遅くなってしまった。0時すぎに家に帰ると、眠そうな顔の妻が「カエル、どうだったの？」と聞いてきた。「もう最高だったよ！！」と即答すると、どうやらこの時の私の顔が相当ほころんでいたようで、「うへえ…お、おやすみ」と気味悪がりながら寝室に消えていった。



陸上でもガマ合戦が行われている。背後からオスが襲いかかってきた！がその瞬間…



後ろ足で思いっきり蹴飛ばした！蹴られた側はひっくり返ってしまった！

後ろ足の蹴りが炸裂！

大乱闘・ガマ合戦



ヒキガエルのガマ合戦 見事な蹴りが炸裂！水しぶきが上がった！メスを奪おうと横入りしてくるライバルに対し、オスは後ろ足で蹴りを入れる。最近、生き物をただ撮影するのではなく、その生き物の生きざまを写したいと思うようになってきている。いつ絶滅するかも分からないこの都会のヒキガエルたちの、子孫を残そうと必死に闘っているさまを撮りたかった。



→
こちらでも蹴りが炸裂！左足がライバルのアゴにクリーンヒットだ。さりげなく右足でも別のオスを牽制している。両足を使いながらも、前足はしっかりとメスにしがみついている。